

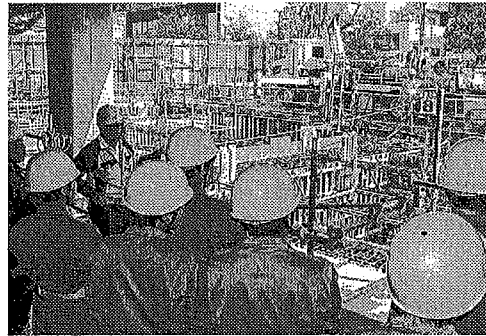
大阪建設業協会(大建協)

は10日、大阪府立西野田工科
 高校建築都市工学系建築シス
 テム2年生31人を招き、奥村
 組が施工する「(仮称)西宮
 北口B街区計画」(兵庫県西
 宮市高松町)の建設現場で見
 学会を開いた。

最初に同社の野末潔所長が
 「現場の雰囲気を感じてほし
 い」とあいさつし、建築概要
 や平面計画などを説明、B I
 M(ビルディング・インフォ
 メーション・モデリング)で
 同工事の鉄骨建て方・内部完
 成イメージなどを映像で紹介
 した。

その後一行は敷地東側の地
 下基礎工事「写真Ⅱ」や、5階
 まで躯体工事が終わった西側
 を見学。2階では断熱材の施

府立西野田工科高生招き見学会



工状況、3階ではコンコース
 となる吹き抜け部、5階では
 タワークレーンの機能などに
 ついて説明を受けた。

高校生が「仕事は楽しいで
 すか」「仕事中の雰囲気は」
 などと質問、社員は「自ら考
 えた施工方法通りに工事が進

大建協 奥村組施工の西宮北口B街区計画

むと楽しい。それには詳細を
 詰めて準備しておくことが必
 要「明るさと厳しさがある。
 オンオフを適切に切り替えて
 いる」などと語った。

最後に生徒代表が「見学を
 通じてものづくりの喜びを実
 感できた。建設業に一人でも
 多く入職できればと思う」と
 謝意を述べた。

同ビルの施工は阪急電鉄。
 規模はS一部RC造地下1階
 地上10階建て延べ1万160
 7平方メートル。設計は松田平田設
 計。16年8月に着工、18年10
 月の完成を目指している。1
 ～4階は店舗で、5階以上は
 教育系を中心としたサービス
 施設を配置。7階以上には関
 西学院大学の入居が予定され
 ている。

最盛期迎える現場を高校生が体験

大建協 奥村組施工の西宮北口B街区計画

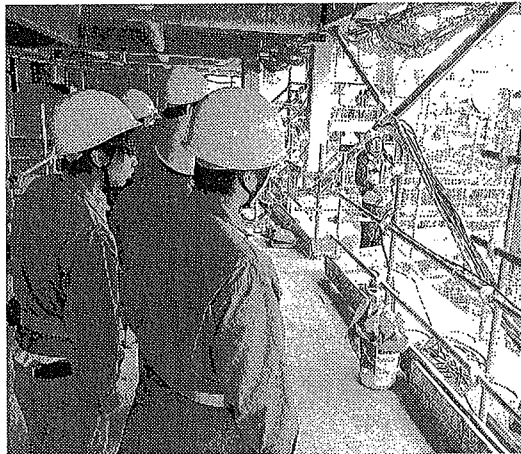
大阪建設業協会は10日、兵庫県西宮市で奥村組が施工する(仮称)西宮北口B街区計画工事現場(設計・松田平田設計)で高校生を対象にした現場見学会を開いた。大阪府立西野田工科高校建築都市工学系建築システム2年生の31人が参加し、これから最盛期を迎える現場を体験した。

奥村組の野末潔工事所長は「現場の雰囲気をよく感じて、今後に生かしてほしい」と話し、工事概要を説明。BIMモデルの映像を紹介した。

その後、現在施工中の2期地下基礎工事、1期の地下、1階、2階、3階、5階(仮設屋上)を見学。地下では地下水のくみ上げ、2階では外壁と断熱材・仕上げ材、3階では仮設通路、5階ではクレーンの解体などについて解説し、現場監督の仕事内容も紹介した。

見学後の質疑応答では生徒から、事故防止対策や仕事の効率化、現場監督の仕事内容、待遇面などの質問が相次いだ。

同工事では、阪急電鉄西宮北口駅の今津方面ホーム東側において、商業ビルを建設している。発注者は阪急電鉄。



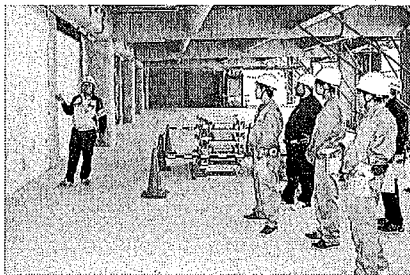
阪急電鉄西宮北口駅の今津方面ホーム東側に商業ビルを建設する

規模はS一部RC造地下1階地上10階建て塔屋1層延べ1万1,607平方メートル。1階から4階は飲食・物販・金融などの店舗、5階から10階までは教育を中心としたサービス施設のフロアとし、7-10階には関西学院大の入居が予定されている。3階には駅と阪急西宮ガーデンズをつなぐコンコースが配置される。

2016年8月に着工し、18年10月の竣工を目指している。建設地は西宮市高松町537ほか。

阪急西宮北口駅前で現場見学会

建築都市工学系の高校生31人参加 大建協



大阪建設業協会は10日、西宮市高松町で阪急電鉄が計画する(仮称)西宮北口B街区計画(施工||奥村組)の現場見学会を開催した。大阪府立西野田工科高等学校建築都市工学系建築システム2

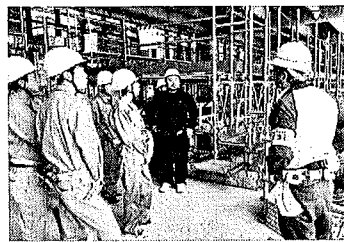
年生31人(内女性1人)と引率教員4人が参加した。冒頭、奥村組の野末潔工事所長が「建設現場の雰囲気だけでも肌で感じていただき、見学会で学んだことを今後に生かしてほしい」とあいさつした。この後、小栗聡副所長が工事概要について説明し、BIM(ビルディング・インフォメーション・モデリング)を観た後、3班に分かれて、普段は見ることができない建築現場に興味深く見学した。見学会後、生徒が「女性の現場監督や職方は活

躍していますか」「作業を効率よく行えるように工夫していることはありますか」と質問した。

(仮称)西宮北口B街区計画(西宮市高松町537、他)の敷地面積2965・38平方メートル。規模は商業ビル地下1階(RC造)地上10階建塔屋1階(S造)延1万1607・29平方メートル(建築面積1648・7平方メートル)。1~4階は飲食・物販、金融機関などの店舗、5~10階は教育系を中心としたサービス施設、7~10階は関西学院大学が入居予定。敷地内の南側に駐輪場約800台を設置。工期18年10月31日。設計監理は松田平田設計大阪支社。

「目標持って仕事を」

西野田工科生の現場見学



地上4階部分を見学

1面につき 仮称・西宮北口B街区計画の工事

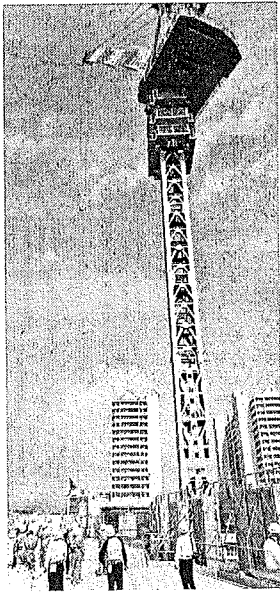
現場は、阪急電鉄が計画する商業ビルで、同ビル内のコンコースを通じて阪急西宮北口駅と阪急西宮カーテンズが結ばれる。施設規模は、鉄骨一部鉄筋コンクリート造地下1階地上10階建て延べ1万1607平方メートル。完成予定は2018年10月31日。工事は先行して5階までを西側と東側の2工程に分け進めており、

現在、西側5階までの躯体工事が完了し、東側の基礎工事に着手。年内に5階までの建方を終える予定。

見学後、生徒らの建設業への素朴な疑問に対して、複数の現場社員が返答。「事前によく打ち合わせをして仕事に臨むことが安全にもつながる」「目標を持って仕事をすることが大切」「苦勞しただけ達成感は大い」「入社したばかりだけど少しずつやりがいを感じている」などと答えた。

大建協が高校生現場見学を開催

西宮北口B街区計画工事現場で



地上5階部分でタワークレーンの説明を受ける生徒ら

10日に大阪建設業協会(奥村太加典会長)主催の高校生を対象とした現場見学会が仮称・西宮北口B街区計画の工事現場で行われた。大阪府立西野田工科高校建築都市工学系建築システムの2年生31人が参加。施工者の奥村組・野末潔所長は、「現場の雰囲気だけでもつかんではいい」と話した。 ※7面につづく

躯体進む「西宮北口B街区計画」を興味深く

西野田工科高生招き 大建協が現場見学会

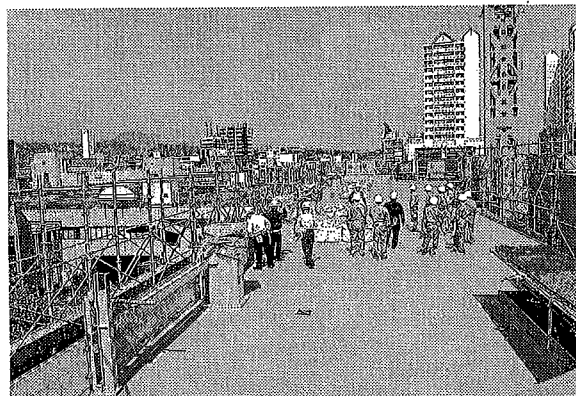
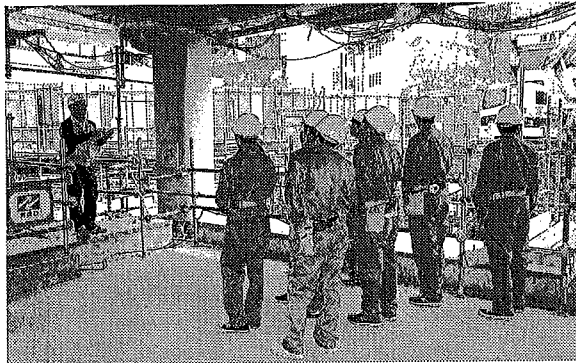
西宮北口B街区計画(西宮カーデンスを結ぶ仮見学を終え、「仕事の宮市高松町五三七他、施通路(連絡デッキ)を設け、大変さについて工二奥村組)の工事現場。仮通路に切替え後、「現場監督に必要なで行われた。今回は、大既存ペDESTリアンデッキ資格は」「現場監督とい阪府立西野田工科高等学キを解体し、そのスペースで一番苦労すること校建築都市工学系建築シスに建物東半分の躯体を「とほ」等の質問が寄せられ、施工する方式を採用して、れスタッフが丁寧な答え、さらに「やりがいがある」

まず、工事を代表して奥村組の野末潔所長が「説明だけでは難しいと思うが、本日は、現場の雰囲気だけでも感じてほしい」と挨拶し、工事概要や工事の進め方等の説明後、現場スタッフの案内で、躯体工事が進む現場内に入った。

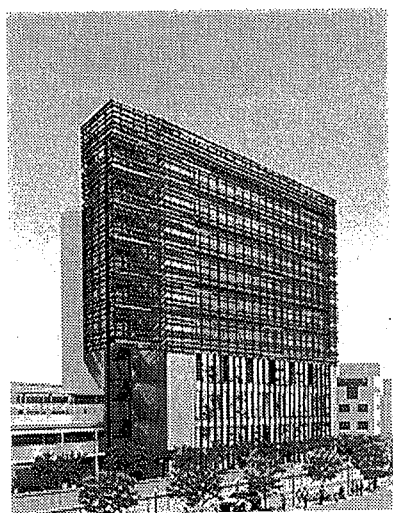
同工事は、二〇一六年八月に本格着工。現場は、敷地北側に阪急西宮北口駅、西側を阪急今津線高架、作業エリア東側から南側には駅から阪急西宮カーデンスに向かうペDESTリアンデッキ等に囲まれ狭い場所に位置する。作業を進めるに当たっては、東西に分割し、先行して建物西側の五階部分までの鉄骨を建ち上げ、その三階部分に駅と

施工・奥村組が来秋開業目指し

生徒達は、基礎工事が進む東側エリアや既に建ち上がっている西側エリアの地下から五階床部分までの様子を見て回った。事前打ち合わせを行い、段取り良くしていけば仕



日頃目にするこの出来ない作業所内を見て回った(㊤は一階、㊦は5階床部分)



「(仮称)西宮北口B街区計画」の完成予想図

「(仮称)西宮北口B街区計画」は、S・R・C造地下一階地上十階延べ一、六〇七平方メートル。地上一階から四階に飲食、物販や金融機関などの店舗が入り、五階から十階が教育系を中心としたサービス施設で、うち七、十階に関西学院のロースクール(司法研究科)が入る予定。敷地内の南側に駐輪場(約八〇〇台)を設置する。また、三階の連絡デッキは、ビルを通り抜けるコンコースとして、賑わいのある商業環境を演出する。設計は松田平田設計。二〇一八年秋に開業する予定。

大阪府建設業懇話会

太陽の塔耐震改修を見学

堺高校2年40人が参加

大阪府と大阪建設業協会、大阪府建団連、大阪電

業協会、大阪空気調和衛生

工業協会、大阪府中小建設

業協会で構成する大阪府建

設業懇話会(委員長・前田

栄治大阪府住宅まちづくり

部技監)は10日、大阪府吹

田市千里万博公園の「日本

万国博覧会記念公園太陽の

塔耐震改修その他工事(そ

の2)で現場見学会を開

いた。

堺市立堺高校建築インテ

リア創造科2年生40人が参

加し、万博遺産の耐震改修

工事などへの理解を深め

た。設計は昭和設計、施工

は大林組が担当。

冒頭、前田委員長が「懇

話会では建設業に優秀な人

材に来てもらいたいと考え

現場見学会を企画した。さ

またさまざまな分野の技術者が塔

再生事業に取り組

んでいる。卒業後

の進路として明る

い建設業界を考え

てほしい」とあい

さつした。

続いて大阪府住

宅まちづくり部公

共建築室一般建築課の佐藤健哉総括主査が同工事の計画概要を解説。

その後、大林組の垣内博

所長らに引率された一行は

現場を見学した。地上から

塔の地下1階に入り、エレ

ベーターで生物の進化を表

現したオブジェ「生命の木」

を間近に見ることができ

る。2階まで上昇。2階付近

の施工状況の説明を受け、

階段で1階に降り、再び地下

1階を経て地上に戻った。

塔正面付近の工事の様子も

見学した。写真。

また学生はお祭り広場の

控え室で、大林組が作成し

た改修後の塔内部の3次元

(3D)CADによるVR

仮想現実(VR)映像を、

専用ゴーグルを使って体験

した。

同工事は芸術家・岡本太

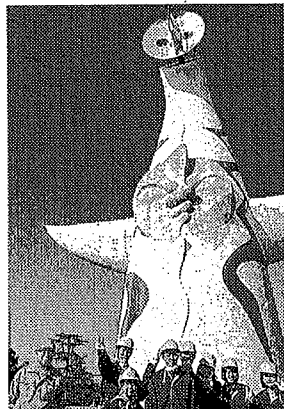
郎氏が手掛けた1970年

大阪万博のシンボル「太陽

の塔」(高さ約70m)を耐

震補強するとともに建築物として内部の階段を登りながら「生命の木」を鑑賞できるようにする事業。塔内の上部を鉄骨フレームで補強し、下部はコンクリートを打ち増す。塔の周囲の地

下を増築し展示室を設置する。規模はRC・SRC・S造地下1階地上2階建て延べ1304平方m。工事の進捗率は約70%。18年3月の完成を目指す。



太陽の塔耐震改修を見学

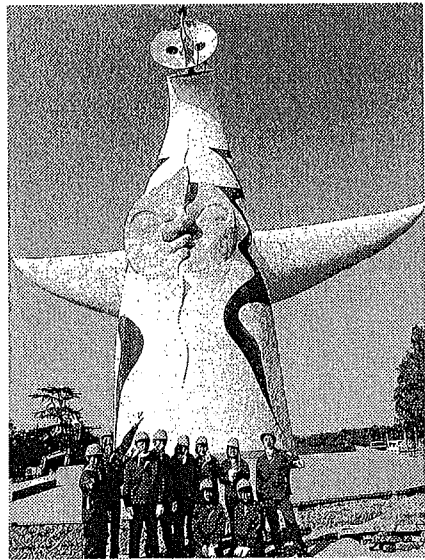
大阪府建設業懇話会

大阪府と大阪建設業協会など府内の建設業団体で構成する大阪府建設業懇話会（委員長・前田栄治大阪府住宅まちづくり部技監）は10日、日本万国博覧会記念公園太陽の塔耐震改修その他工事（その2）（大阪府吹田市）の建設現場で、工業高校生を対象にした現場見学会を開いた。堺市立堺高校の建築インテリア創造科2年生40人が参加した。

冒頭、前田技監は「1970年に開かれた大阪万博の閉幕から48年ぶりに内部を一般公開するため、耐震補修している。この工事には多くの人が関わり、再生に向けて取り組んでいる。この見学会が建設業界に進むきっかけになることを期待している」とあいさつ。工事の発注者である大阪府の佐藤健哉公共建築室一般建築課総括主査が工事概要を説明した。

その後、4班に分かれて太陽の塔の内外部を見て回り、施工者である大林組の垣内博現場所長が工事工程や耐震補強の内容などを解説した。そのほか、VR（仮想現実）ゴーグルによるバーチャルリアリティー体験なども行った。参加した生徒は「狭い中にたくさんの足場が建っていた」と驚いた様子だった。

高校生40人がVRなど体験



太陽の塔と記念撮影

同工事では、塔上部の鉄骨補強や下部のコンクリート増し打ちによる補強のほか、内部階段の新設、地上から地下へのアプローチ兼展示スペースの増築などを行っている。

塔内部に生物の進化を表現したオブジェ「生命の樹」（岡本太郎作）があり、足場組みのため3Dスキャンや3DCADを駆使して計画を行った。

設計は昭和設計、施工は大林組が担当。進捗率は約70%。工期は2018年2月28日まで。

太陽の塔の耐震改修工事を見学

建築インテリア創造科の高校生40人参加 大建懇



大阪府建設業懇話会は10日、大阪府吹田市の方博記念公園で工事を進めている日本万博記念公園太陽の塔耐震改修その他工事(その2)(施工Ⅱ

冒頭、大阪府住宅まちづくり部の前田栄治技監が「万博閉幕から48年振りの一般公開に向けて、太陽の塔に対して本日見学する耐震改修工事を含めた様々な改修工事を実施している。本日の見学会を通じ、卒業後の進路

として、建設業界に目を向けていただければと思う」とあいさつした。

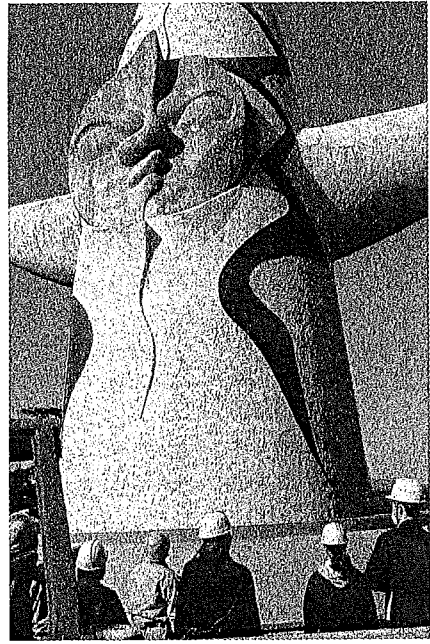
この後、大阪府住宅まちづくり部の佐藤健哉公建建築室一般建築課総括主査が計画概要と見学概要について説明した。その後、Aグループ(1・2班)とBグループ(3・4班)に分かれて、普段は見ることができない太陽の塔の内装やVR(バーチャルリアリティ)を用いた改修後の太陽の塔の内部を興味深く見学した。見学会後、生徒が「今まで建築してきたものの中で一番誇りに思うもの」「ビルや家の補強工事との違いはありますか」などと質問した。

日本万博国覧会記念公園太陽の塔耐震改修その他(その2)(吹田市千里万博公園)の敷地面積1291.667平方メートル。規模はRC(下部)・SRC(中央部)・S造(上部)・腕部)地下1階地上2階建。延1304平方メートル(建築面積491平方メートル)。高さ約70メートル。竣工18年2月28日(予定)。請負工事費は13億8888万円。発注者は大阪府住宅まちづくり部公共建築室一般建築課、施工は大林組。

大阪府建設業懇話会の現場見学会

「太陽の塔耐震改修工事」

施工＝大林組



「太陽の塔」耐震改修作業を見学

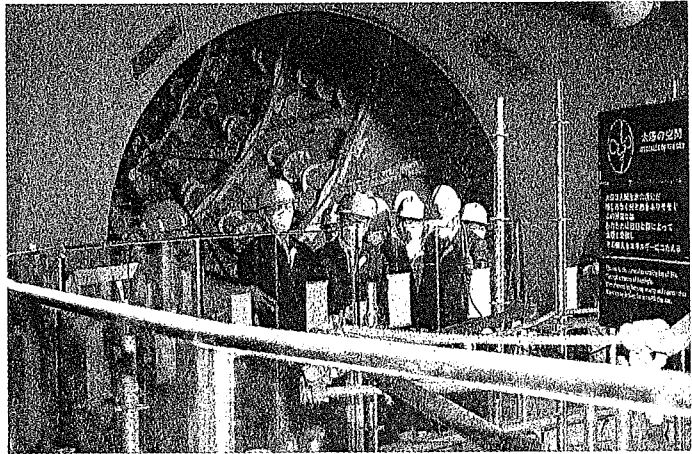
大阪府建設業懇話会（大阪府並びに建設業五団体で構成）の主催による高校生を対象とした建設現場見学会が十日、大阪府吹田市万博公園内で大林組が施工中の「太陽の塔耐震改修工事」作業所で開催された。大阪府内の建設業の振興を図るため、建築系の高校生を対象に同懇話会が毎年、開催しているもので、今回は、堺市立堺高等学校建築インテリア創造科の二年生四〇人が参加した。

市立堺高校の40人が参加



前田技監

この工事は、大阪府発内へのアプローチ部とな注の「日本万国博覧会記るエントランス棟を建設念公園太陽の塔耐震改修するもの。修その他工事（その二）見学にあたり主権者であるとし、「現在、府内の太陽の塔は、万博公園の敷地面積一、二九一・六六七平方メートル、下部を



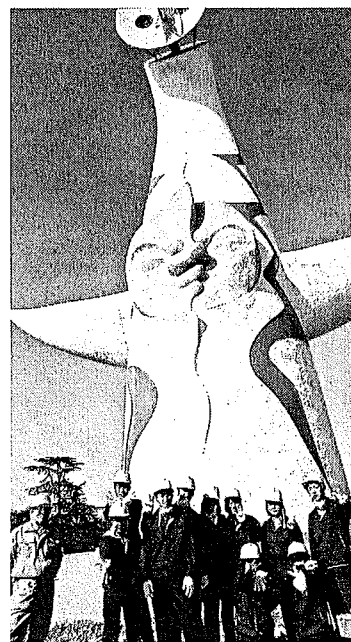
「太陽の塔」内部に入って

RC造、中央部をSRC造、上部・腕部はS造の建築面積四九一平方メートル、延床面積一、三〇四平方メートル、高さ約七〇メートルの規模で、昭和四十五年に完成。塔頂部には「黄金の顔」、中央部は「太陽の顔」、背後は「黒い太陽の顔」が描かれ、内部には人類の誕生から未来に至る進化の過程を示した「生命の樹」等が展示されている。

では、様々な専門技術者が工事に携わり協力して工事を実施しており、それらを見学することで、将来の進路として建設業界も参考にしてほしい」とその成果に期待を寄せた。太陽の塔は、万博公園内の太陽の広場に位置する敷地面積一、二九一・六六七平方メートル、下部を

太陽の塔耐震改修現場を見学

府建設業懇話会



大阪建設業協会など建設業5団体と大阪府で組織する大阪府建設業懇話会は10日、吹田市の日本万国博覧会記念公園内で行われている太陽の塔耐震改修その他工事(その2)の作業現場(施工者=大林組)で、現場見学会を開催した。写真は太陽の塔をバックにした記念撮影。左端が垣内現場所長。(8面につづく)

府懇話会・太陽の塔現場見学会

堺高校から40人参加

1面つづき 堺市立堺高校建築インテリア創造科で学ぶ2年生40人が参

加。垣内博現場所長から工事概要などの説明を受けた上で、2班に分かれて現場を見学。耐震改修と増築工事が進む太陽の塔の外側から順に見て回った。内部は3Dスキャーンと3DCADを使って計画された足場が生命の樹の周りに組み上がっており、内装作業がピークを迎えていた。その後、太陽の塔の正面で記念撮影を行った。

見学後、バーチャルリアリティー(VR)体験で、改修後の太陽の塔内部を確認。ほとんどの生徒が初めての体験で、VRのヘッドセットを着けて仮想空間を楽しんでいた。また、大林組の若手社員から仕事の魅力を聞いた。生徒らは建設業界に入った理由や給料、休日などを積極的に質問。若手社員は「やりがいも完成したときにお客さまが喜んでくれること」などど返答した。

当日は府住宅まちづくり部の前田栄治技監をはじめ、府の職員も同行し見学。冒頭、前田技監は「現場を肌で実感し、今後の勉強や就職活動に生かしてほしい」と語った。

11月20日(月)

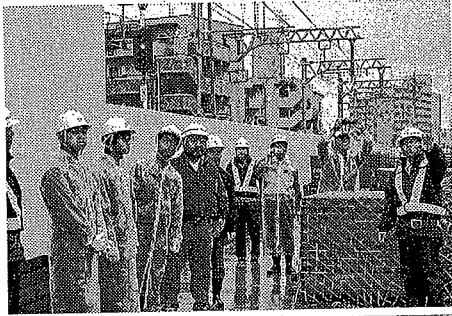
建設工業

阪神本線連立現場 高校生3人が見学

大建協

大阪建設業協会(大建協、奥村太加典会長)は14日、神戸市と阪神電気鉄道が東灘区北青木地先で事業を進めている「本線住吉・芦屋間連続立体交差工事(住吉川以東)の内土木関係主体工程第2工区」(施工Ⅱ奥村・銭高・不動テトラV)で現場見学会を開いた。大阪府立西野田工科高校建築都市工学系都市工学専科2年生3人が参加し、高架構造物の施工状況を間近で見学した。

同JVの林忍所長(奥村組)が「阪神本線住吉・芦屋間連続立体交差事業」の目的や施工している第2工区(延長470m)、鉄道高架化の方式の概要、同工区で採用している仮線方



式、工事の施工順序(鋼矢板打設、基礎杭打設、掘削工、床付け・ならしコンクリート工、地中梁施工、埋め戻し・整地、柱構築、床版構築)について画像を用いて説明。

その後学生たちは、施工中の上り線(梅田方面行き)に移動し、鉄筋が組み上がった床版の様子や、躯体部分がほぼ完了した場所を見学した。

見学会終了後の質疑応答では、学生から「つらいことは何ですか」「印象に残っている現場は」「仕事をすすめる上で心の支えは」な

どについて質問、所員らが丁寧に答えていた。

同連続立体交差事業は住吉駅東側から芦屋市境までの約4kmを高架化し、11カ所の踏切解消と33カ所の交差道路改良を行うプロジェクトで、魚崎駅以西は05年8月に完成した。

同工区は青木駅付近の高架構造物と駅建築工事などを施工する。工事延長のうち130mは駅のプラットフォーム。06年11月に着工し、下り線(神戸三宮方面行き)は15年12月に開通した。上り線も19年度中の高架切替えを目指す。

高校生が連立現場見学 床版型枠や鉄筋組立て

大建協

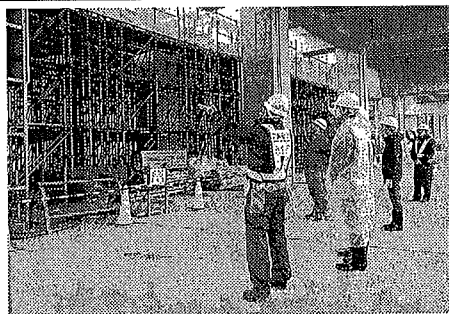
大阪建設業協会は14日、奥村組・銭高組・不動テトラJ Vが施工している阪神本線の連続立体交差事業「本線住吉

・芦屋間連続立体交差工事(住吉川以東)の内土木関係主体工事 第2工区」の高校生対象現場見学会を開いた。

大阪府立西野田工科高校建築都市工学系都市工学専科2年生3人が参加した。

林忍工事所長(奥村組)が工事概要を説明し、床版型枠工や鉄筋組立作業などを見て回った。

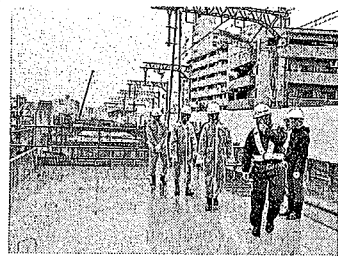
見学後の質疑応答では、参加した生徒から「働きやすい現場」や「現場監督から見ている一緒に仕事しやすい職人」「仕事終わりの楽しみ」や「りがいのあった、印象に残る現場」「仕事を乗り切るための心の支え」などについて質問があった。



同工事では住吉川から神戸・芦屋市境までの全長4キロの高架化事業のうち、青木駅を含む神戸市東灘区北青木地先の第2工区(約470メートル)において、土工、土留工、桁工、躯体工(場所打ち杭工、コンクリート工、型枠工、鉄筋工)、建築(高架施設、乗降場、駅舎、乗降場上屋、機械設備)を施工している。現在柱の構築はすべて完了しており、床版の構築を進めている。

西野田工科生招き現場見学会

阪神電鉄住吉・芦屋間連続立体交差事業 大建協



大阪建設業協会は14日、神戸市及び阪神電気鉄道

が阪神本線住吉・芦屋間連続立体交差事業として進めている「本線住吉・芦屋間連続立体交差工事(住吉川以東の内末関係主体工事第2工区)の現場見学会を開催した。大阪府立西野田工科高等学校建築都市工学系都市工学専科2年生3人と引率教員3人が参加した。施工は奥村

・銭高・不動テトラJV。

林忍工事所長が工事概要の説明を行った後、施工中の上り線の高架橋を歩き、床版の構築作業などを見学した。見学会後、生徒は「今まででやりがいのあった、印象に残っている現場」「大変な仕事だと思いますが、心の支えになっているものは」と質問した。

阪神電鉄の連続立体交差事業は、住吉駅の東側から芦屋市境までの約4

きを高架化し、11か所の踏切解消と33か所の交差道路の改良を図る。97年

に工事着手し、魚崎駅から西側800mが05年8月に工事完了している。

06年11月より魚崎駅から東側3・2きを工事着手し、第1〜5工区に分けて仮線方式で工事を進めている。10年10月に仮線を北側に切替え、11年4月に下り線高架工事に着手。15年12月に下り線を高架に切替え後、16年4月に上り線高架工事に着手し、高架切替えを19年度に予定している。

同工区は、延長470mの高架化工事と青木駅舎の構築を行う。

阪神本線住吉・芦屋間連立にも若人の目が 生徒の熱心な質問にも自らの体験交え

鏡高・不動テトラ(JV)の工事現場で行われた。今回は、大阪府立西野田工科高等学校建築都市工学系都市工学専科二年生の生徒三人(引率教員三人)らが参加。工事事務所に集合した一行は、林忍J.V.所長から、工事概要や工事の進め方等の説明を受け、鉄道高架化工事が進む現場内に入った。

生徒達は、林所長の説明を受けながら、鉄道高架の橋脚が建ち上がった姿や床版構築が進む高架上を歩き、鉄筋を組んでいく作業員の姿やコンクリート打設前の床版の様子を見て回った。作業エリアは、阪神本線下り線、上り線(仮線)に挟まれた狭小な敷地で、すぐ横を電車が行き来する中での作業であることから、林所長は「工事を進める上で、作業員の安全確保はもちろん、電車の運行を妨げないようにするのが、我々の役割だ」と述べた。見学を終え、生徒から「現場監督からみて、どんな職人さんなら仕事がしやすいですか」、「後輩に仕事を教えていくなかで、一番しんどかったことと困ったこと」などの質問が寄せられ、スタッフからは自らの経験を振り返りながら丁寧に答えていた。

高架上を歩きながら床版構築が進む様子を見て回った



林所長の説明を受ける西野田工科高校の生徒達

一般社団法人大阪建設業協会主催による高校生を対象とした現場見学会が十四日、神戸市東灘区北青木四の「阪神本線住吉・芦屋間連続立体交差工事(住吉川以東)の内土木関係主体工事(第2工区)」(施工J.V.奥村・

同現場の工事概要は、延長四百七十メートル(ラットホーム百二十メートルを含む)、土工、桁工事、駅舎工事他。出来高は、約八割で、八十九万九千二百二十二時間(十月三十一日時点)の無災害を継続中だ。

神戸市と阪神電気鉄道が進める、「阪神本線住吉・芦屋間連続立体交差事業」は、阪神電鉄住吉駅の東側から芦屋市境までの約四キロを高架化し、交差道路や側道の整備を行い、踏切の解消と都市環境の改善を図る連続立体化事業。事業完成後には、十一カ所の踏切解消と三十三カ所の交差道路の改良により、南北に分断されていた市街地が一体化され、「青木駅」の2駅が高架化される。

仮線路の切替え方式で進め、平成二十七年十二月に下り線高架切替えされ、上り線は、二十八年四月に工事着手し、三十二年一度に高架化される予定だ。

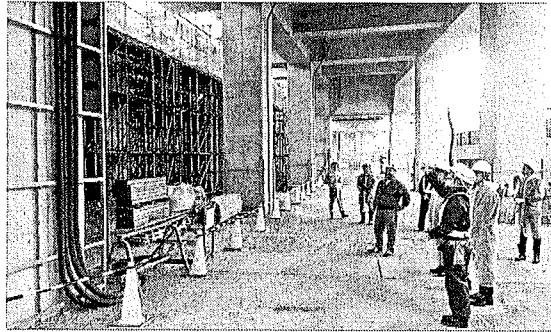


で、このうち、魚崎駅より西側八百メートルを平成十七年八月に完了。現在、魚崎駅から東側の芦屋市境までの三・二キロ間を平成十八年十一月に工事を開始。工事は、五工区に分割し、第1工区を大林・新井J.V.、第2工区が奥村・鏡高・不動テトラJ.V.、第3工区が清水・前田J.V.、第4工区が鹿島・鴻池・西松J.V.、第5工区を大成・戸田J.V.が担当。

奥村J.V. 貫く安全すでに90万時間

大建協見学会

西野田工科高の2年生が 阪神本線立交現場を見学



大阪建設業協会（奥村太加典会長）主催の高校生を対象とした現場見学会が14日、奥村・銭高・不動テトラJVが施工する「本線住吉・芦屋間連続立体交差工事（住吉川以東）の内土木関係主体工事 第2工区」の工事現場で開かれた。

西野田工科高校建築都市工学系都市工学専科の2年生3人が参加。林忍所長が工事概要を説明した後、現場を旨く回った。同現場は阪神本線住吉駅以東で芦屋市境までの約4キロ間を高架化する連続立体高架化事業全5工区の中の第2工区。2019年度中の上り線切り替えを目指し、現在、高架化工事を進めている。

見学後に質疑応答を行い、生徒らは「どんな職人さんなら仕事がしやすいですか」「仕事終わりの楽しみは」など素朴な疑問を投げ掛けていた。

▲築造中の高架下から工事内容を説明する林所長